

ふかき夜の深山かくれのとのゐさるひとりおとなふ聲のさびしき

〔雑談集〕目モミエズ耳モキコエズ音タ、ズ三ツノ猿コソタモチヤスケレ

イワザルト見ザル聞ザルヨリモナヲオモハザルコソタモチガタケレ

不言不見不聞、見感斷ジ易キコト石ヲ破ガ如シ、思感斷ジ難キコト藕絲ノ如シ云々、

〔のせざるさうし〕さるほどに、たんばのくに、のせの山に、としをへしさるあり、なをばましおのこ
んのかみと申ける、その子に、こけまるどのとて、世にこえてちゑさいかくげいのふすぐれける
かたあり、此こけまるどの、あふぎおつとり、一さしまふて入給ふを、いかなるものもみるより、心
そらになし、おもしろからずといふ事なし、さるあひだ、こけまるどの、やうくはたちばかりに
ならせたまふ、ち、は、いかなるかたよりも、御よめごをと申させ給へ共、み、にもき、入たま
はず、われおもふまさい有、なみなならんものをいかでかつまにむかへん、いかなるくぎやう
てん上人のむすめならでは、ひさしからぬうき世に何かせんと、おぼしめしける、世中の人たち
身のほどまらぬ望して、おもひ給はんやからもあるべし。○下略

〔一話一言十五〕猿子眠

壽世青編云、伏氣有三種眠法、病龍眠、屈其膝也、寒猿眠、抱其膝也、龜鶴眠、踵其膝也、今も俗に膝を抱
て眠るを猿子眠といふ也、

〔桃源遺事〕一西山公○徳川光圀むかしより、禽獸草木の類ひまでも、○中略この國○常陸へ御うつしな

され候、○中略

獸の類○中略唐猿尾有長尺餘也

〔八丈島漂流記〕延享二年

鹿猿兔などの類、都而なし、